

支援センター部 平成30年度活動状況

支援センター部

1 活動状況

(1) 相談等の件数 (校外支援、諸会議)

相談等件数 内訳 31.3.31現在					総件数
幼・保	小学校	中学校	高等学校	その他	
18 (27)	43 (38)	10 (12)	12 (40)	71 (60)	154 (177)

※相談の形態件数 → 訪問88、来校3、電話3

ア 相談内容

幼稚園・保育所の相談件数はやや減った。小学校は、同校からの複数回の依頼が多く、保護者からの相談も多かった。いずれも困り感をもった園児、児童生徒への指導・支援についての相談が多い。高校は、昨年度1校での検査依頼が多かったが、今年度は、相談校が増え発達検査結果に基づく指導・支援の検討プラス進路に関わる相談が多かった。

イ 校内支援

23件

困り感をもった本校児童生徒の支援の検討や情報共有を目的として、関係機関と支援会議を行った。難しい対応を検討するケースが増えている。

(2) 特別支援学校継続型訪問支援

昨年度に引き続き、地域の7校・園について年3回の継続型支援を行った。

(姉体小学校、胆沢愛宕小学校、水沢小学校、三ヶ尻小学校、水沢中学校、南都田幼稚園、前沢東幼稚園)

(3) 巡回訪問

ア 奥州市：市自立支援協議会療育部会の高等学校巡回相談メンバー。今年度は療育部会発行の通信を高等学校へメール送信した。

イ 金ヶ崎町：教育委員会からの依頼を受け関係機関と一緒に幼・保の巡回訪問を実施した。

(4) 開かれた学校作り

「学校へ行こう週間」(6/25～6/28に実施)

来校者数延べ235名(昨年度は262名)

来場者のアンケートより

- ・「授業内容や生徒の様子を知ることができて良かった。」
- ・「学校での様子が分かり、勉強になりました。」
- ・「このような機会をまた楽しみにしています。」
- ・「生徒の頑張っている姿、先生方の指導の素晴らしさを見せていただいた。」
- ・「限られた教室を工夫して使っている様子、ご苦労を感じました。」 等

(5) 研修会等企画

ア 発達障がい等研修会を夏期休業中に実施。87名の参加があった。

(圏域の幼・保、小、中、高校から52名と本校職員35名)

内容は、日詰小学校教諭 関口栄子 先生による「発達特性のある子どもたちへの支援」について講演をいただいた。

- イ ボランティア養成講座（県教委推進指定校 前沢明峰・一関清明・花巻清風支援学校で持ち回り）
（19名の方が受講。8回の講義・演習のうち6回以上受講した方に認証書を授与。そのうち11名の方がボランティア登録）

本校職員、特別支援エリアコーディネーター柿崎先生が特別支援教育に関わる講義・演習を行った。

(6) ボランティア活用

特別支援教育ボランティアバンク登録者の中から、5名の方に小学部と中学部のプール学習の補助のボランティアとして活動していただいた。暑い中、児童生徒とプール学習を通じてふれあうことができたが、参加できるボランティアの数が減ってきているのが課題である。

(7) スクールカウンセラー配置事業

カウンセリング年間6回 小学部職員1名 中学部生徒2名 職員2名、高等部生徒2名 職員2名
計9名相談

(8) スクールソーシャルワーカー主張相談

岩手県社会福祉協議会から1名派遣 小学部1名 中学部1名 高等部1名 計3名が相談（本年度より活用）

(9) その他の連携等

ア 就学支援専門委員会委員（前沢・衣川、胆沢、江刺、水沢、金ケ崎町）

イ 自立支援協議会（奥州市、金ケ崎町）

ウ ホームページの活用（各研修会等の案内・実施の様子など情報発信に努めた。）

2 専門性の向上研修会

（12月26日本校職員対象に研修会を実施。）

講師に岩手県立療育センター相談支援部（岩手県発達障がい者支援センター ウィズ）

発達障がい支援係長 長葭康紀氏を招いて講義と演習を実施。